



初めて迎える留萌の厳冬を前に今月下旬、防寒着や長靴を買った。するとすぐに、それらが役立つ日がやってきた。ただ、暴風雪の取材や除雪ではない。24日に行われた増毛山道体験トレッキングを取材するため。増毛町別対と石狩市浜益区幌を結ぶ増毛山道(約27キロ)は1857年(安政4年)、郵便物の運搬や北方警備、漁場間の連

## 歴史残す熱意 次代へ

絡などのために開かれた。だが、時代とともに往来が減り、ササに埋もれてしまった。この山道を復元しようと立ち上がったのが、体験トレッキングの主催者の一つNPO法人増毛山道の会だ。

会員は参加者の前後に付き、山道に残る駅通跡や電信線の電柱などの歴史遺産について解説してくれた。草木に覆い隠された山道を見つけたときの感動も聞くことができた。私は4年前に右足首を骨折してまだ足の違和感が消えないうえ、登山の経験もほとんどない。雨も降ってくる。不安を抱えての出発だった。

だが、歴史遺産を見たり、苦勞話を聞いたりしていたら、いつの間にか不安は消え去っていた。

だが、道中で会員の高齢化が課題だとも聞いた。平均年齢は60歳前後。活動の中心となる役員は70歳前後だ。そのため、小学生を対象にしたツアーを行ったり、札幌でPR活動をしたり懸命な努力が続いている。

山道の復元はまだ途上。トレッキングを楽しむには毎年、草刈りもしなくてはならない。歴史を残そうという熱意が次の世代につながっていくことを願っている。

(留萌・堀雅晴)